

JAMの主張

適者生存と社会性の認識を

JAM運動の再構築に向けて

機関紙 J A M 2016 年 7 月 25 日発行 第 210 号

第 24 回参議院選挙は、7 月 10 日投開票で行われ、任期 6 年の参議院議員の半分にあたる 121 人が改選された。与党の自民、公明が改選 121 議席の過半数（61 議席）を上回る計 70 議席（自民 56・公明 14）を確保したが、民進党は 32 議席にとどまる結果となった。連合の組織内比例候補 12 人のうち 8 人が当選したが、J A M が擁立した「藤川しんいち候補」は 11 万 3045 票を獲得したものの当選に至らなかった。これまで守ってきた政策実現活動にかかせない国政との強いパイプが途切れた。

私たちは（ものづくり・中小労働者）の代表を国会に送ることの重要性を認識し、J A M 35 万人総力を挙げて取り組んできた。津田やたろう前組織内議員は、ものづくりの現場で働く仲間の声を数多く国政に届け、中小ものづくり政策と公正取引の推進をはじめ、雇用調整助成金の要件緩和や拡充、労働法制改悪阻止、社会保障関連問題への対応など、私たちの雇用と暮らしを守るため重要な役割を担ってきたことはその実績からも明白である。しかし、組織内国会議員の必要性和政策実現活動の重要性を、35 万人が認識し行動できたのだろうか。参院選の結果から見れば、できなかつたと言わざるを得ない。

先日、ある会議にてヤフー知恵袋の質問と回答を題材にグループ討議を展開した。「弱肉強食が自然の摂理。人間社会ではなぜ弱者を守るのか？」との質問に、回答は「自然界は弱肉強食ではなく適者生存。どう適応するかはその生物の生存戦略次第であり、人間の生存戦略は『社会性』である。社会が無いアマゾンのジャングルに放置されれば人間は全員『弱者』であり、できるだけ多くの『弱者』を生かすように社会を構築し生存戦略をとってきた」というものであった。

討議の方向性は「人間の生存戦略と労働組合結成の原点は一致」しており、生き抜くためには団結が欠かせないということ。「社会性のある運動構築が必要」であり、共感と支持が得られる運動への総点検が欠かせないというものであった。

私たちは、重要な運動の柱である政策実現に欠かせない組織内国会議員の存在を失った。今こそ、原点回帰による運動の総点検とこれからの担う J A M 運動の再構築へ取り組むべきである。

副書記長 川野英樹